

全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一二年が開催

八月六日月曜日、午後六時半から、『全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一二年』が、西本願寺高岡会館礼拝堂で開催され、今回で十九回目を迎えた。テーマは「自分たちで作る 命優先社会」。約一二〇名の参加者と共に、宮川善裕教務所長の調声のもと、第三・第四ブロック各組の出勤をいただき、第一部『全戦没者追悼法要』が勤修された。各教化団体代表者をはじめ、つどいに参加された方々全員が正信偈のお勤めの中、焼香をされた。

引き続き第二部の『平和を願うつどい』では、ドキュメンタリー映像監督の鎌仲ひとみさん（氷見市出身）よりお話をいただいた。（写真）
はじめに監督は、二〇〇三年にイラクの現状を捉えた映画『ヒバクシャ〜世界の終わりに〜』の製作にいたった経緯と、当時のイラクの状況を話された。原発のごみから作られた劣化ウラン弾を兵器として使われた湾岸戦争後の経済制裁により、国連からイラクに内部被ばくの治療薬である抗がん剤の輸出が禁止されていたと説明。アラブ諸国の中では一番、医療技術が高くアラブ人であれば、医療費も無料であったイラクにおいて、特に子供に投与できれば

助かるはずの命が、抗がん剤がないために多くの方が亡くなったと話された。日本においても、核の平和利用と言つ名の下に濃縮ウランをアメリカから輸入し原発を動かしているが、そこから出てくるゴミを兵器に利用され、戦争が終わった後にも病気で亡くなっていくイラクの子供たちの現状に、監督自身も東京に住み、原発の電力を利用し関与しているというこの責任から映画を作つたと話された。

また、経済制裁により当時の世界から見捨てられているイラクの現状は、現在の福島県と酷似していて、見捨てられていると感じる福島県民がたくさんおられると指摘された。

そして、一九四五年当時、原爆を落とされた広島と悲惨な状況と合わせて、内部被ばくによる恐ろしさを説明。その上で、五年間のアメリカによる言論統制により、「原爆の被害は終息した」とする犠牲者を切り捨てた当時の状況と、福島原発事故による今回の日本政府の対応が同じであるとされた。

さらに自身が福島に行き、政府や東京電力の事故後の対応の問題性を指摘し、「福



島の子どもたちをはじめたくさんの方が被ばくしてしまつた。これをもつのは、福島の人達も問われているし、日本中の人たちが

が問われている」と言われ、これからの日本の原子力をはじめとするエネルギー政策に対して、改めて考える機会を提起された。その中で、富山県や私たちにできることとして、南相馬に多くの富山県民が移住している過去の歴史から、子供たちを夏の間だけでもホームステイさせていくことや、経済支援の充実、様々な水流を利用した小水力発電の活用を検討していく必要性を提示いただいた。

参加された方のアンケートでは、「原発はやめた方が良いが、それに代わるものが見つかりにくい」と思っていた。「原発・放射能の状況が正確に伝わっていない」等の声が寄せられた。実践運動教区委では今後も、時局の問題への対応ということも含め課題として取り組んでいく予定である。

「東日本大震災教区役職者現地研修」を開催

～二十二名の役職者が参加～

去る七月三十日～三十一日にかけて、「東日本大震災

で大事に築きあげてきたもの全

てを奪われ、慣れない仮設暮らし

をしています。日に日に見えない

形で疲労とストレスが溜まって

二二仮設管理人、佐藤美喜子さん

続いて訪れた福島県復興支援宗務事務所では、同じ

く飯館村から避難中の人たちが生活する吉倉宿舎(福

島市松川吉倉)自治会長の嶋原良友さん、相馬組より

組長の湯澤義秀さん(勝縁寺住職)、杉岡誠さん(善仁

寺住職、飯館村職員)、廣畑恵順さん(常福寺住職)か

ら現状についてお話を伺った。

「災害が発生した際に、情報を収集・発信するなど、

すぐに対応できる態勢にある都道府県は存在しない。

今後、同規模の災害が起これば、飯館村のようなこと

が繰り返されてしまうでしょう。」「国はパニックを恐

れるがゆえに隠します。今の日本には災害が起こった

際に対応できる態勢の県や自治体はどこにもな

い。同じことが起きれば、間違い無く飯館村と同じこ

とが繰り返されます。だからこそ、今回起こったこと

を忘れないでほしい。」「(杉岡さん)

「特例措置として今回の震災での行方不明者は三ヶ月

で死亡申請を出すことができ、一人あたり二百五十万

円の見舞金が支払われました。行方不明の家族の死亡

届を出すことは大変な葛藤がありますが、生活のため

に受給せざるを得ない家庭もありました。そして申請

の住民には補償金が出るが、圏内から数百メートル離

れているため、補償金の貰えない住民と軋轢が生じて

います。ご門徒の間でもそれが原因で対立が起きてい

るので、住職として間に入って、何とか問題を解決し

ようと努力しています。」「三十キロ圏内でも将来的に

帰宅可能な地域と帰宅困難な地域との線引きが進めら

れています。恐らくそれを基準に補償金が算定され、

新たな争いの火種になるでしょう。力を合わせて東京

電力や国と立ち向かっていかなければならないのに、

補償金で被災者同士が対立してしまっているという面

があります。」「(嶋原さん、湯澤さん、廣畑さん)

二日目は、東北教区仙台別院(仙台市青葉区支倉)

に参拝し、別院内に設置された東北教区ボランティア

センターを見学し、中岡順忍東北教区教務所長から宗

門の震災対応の経緯や現在のボランティア状況につい

てお話を伺った。

それによると、現在は全体的にボランティアの数が

減少し、行政のボランティアセンターも閉鎖されたり、

土日は休みにしているところも多いそうである。そん

な状況の中で、東北教区ボランティアセンターでは、

今後もボランティアの窓口として継続的な活動が続け

ていきたいとの思いを述べられた。別院参拝後、津波

被害により甚大な被害を受けた、若林区荒浜の慰霊碑

を訪れた。この荒浜地区は数百体の遺体が発見された

場所であり、海沿いにかつてあった住宅地は今も基礎

が残るのみであった。

高岡教区では今後も継続的な支援活動を予定してい

る。

た。「私も酪農をしていて牛を何頭も飼っていました。ですが、家族同然の牛を全て処分せざるを得ませんでした。今もテレビで牛が写ると、その時のことを思い出してまともに見れません。」「私たちは今ま



教区門徒総代会幹事総会が開催される

七月二十六日から二十七日にかけて、越中庄川荘（砺波市庄川町庄）を会場に、門徒総代十九名と招待された各組の組長（組代表者）九名が参加し、本年度高岡教区門徒総代会の幹事総会と研修会が開催された。

総会では、昨年度の活動報告・会計決算報告と、本年度の活動計画案・会計予算案が提案されそれぞれ承認され、また任期満了にともなう役員改選が行われ、主な役職としては、会長に養島宗一郎さん（系岡組光顔寺所属）が、副会長に石灰治一さん（新湊組妙蓮寺所属）と青木英勝さん（伏木組勝興寺所属）が就任することなどの改選案が承認された。

その後の研修会では、宮川善裕教務所長が『宗勢基本調査に見る

これからの寺院の動向』とのテーマで講演。最初に今年度から宗法が改定され宗派と本願寺が分離されたことについて、「宗派全体では毎年十ヶ寺以上が減少していくという宗勢



の縮小傾向が続いており、そのような現状に迅速に対応していくため、それぞれの役割を明確にし、それぞれの機能を発揮して活動を活性化していくという方向性をもってなされた」との説明があり、分離後にどのように運営されていくのかという組織機構について触れられた。そして、二〇〇九年に実施された宗勢基本調査結果をもとに、「寺院が現在困っていることとして、門徒が高齢化や減少し、そのため寺院の運営が経済的に厳しさを増しているという回答が寺院の立地条件に関係なく多い。そのため護持・運営が困難になっていくとの見通しから、合併や解散を考えざるをえない寺院が増えている。また門徒が減少しているだけでなく、寺院を護持していくこととする意識が低くなっていることが寺院運営を妨げる要因との回答が、特に都市部を中心に多くある。そこには葬儀を接点としている寺院と門徒の関係の希薄さや、住職と門徒の寺院活動に対する意識のズレも見られ、住職と門徒が意思の疎通を図りながら共通認識を築いていくことが大切」と話された。

教区門徒総代会ではこのような研修会を通して、総代としての様々な問題への理解を深めるとともに、組長方との親睦を深めると共に、組長・門徒総代幹事が共通した問題意識をもって組門徒総代会のより充実した活動をめざしての協力体制を強化していきたいとしている。

本年度僧侶研修会について

テーマ；真宗の役割
- 社会的活動とみずからを改めること -

- 第1回 9月3日(月) 午後5時半～9時
- 第2回 9月4日(火) 午後1時半～5時
- 第3回 9月15日(土) 午後1時半～5時

講師 第1・2回 斎藤真氏(熊本教区)
(財)同和教育振興会理事・元中央相談員)

講師 第3回 武田達城氏(大阪教区)
(財)同和教育振興会常務理事・元中央相談員)

公開講座のお知らせ

ビハーラ高岡主催・第1回ビハーラ研修会

テーマ『未定』 9月13日(木) 午後1時半より

会場：西本願寺高岡会館礼拝堂

詳細につきましては、次号報告いたしますが、狩野哲次氏(光ヶ丘病院医師)をお招きし、終末期医療や延命等の医療行為について皆様と共に考えてまいりたいと思います。

どなた様でも参加できますので、お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

第四十四回川上組連合運動会を開催

川上組では、門信徒交流のひとつとして運動会を開催されており、今回で四十四回目を迎えられました。この様子をこ報告いただきました。

去る七月一日、伝統の連合運動会が主催・川上組、共催・寺院女性会、各仏婦、各仏壮、門徒推進協議会、門徒総代会、福光教堂のもと南砺市福野体育館サブアリーナで開催された。真宗宗歌、組長あいさつの後、玉入れなど十一競技に汗を流した。本大会は身体を動かすことにより、心身の解放と寺院相互の連携、門信徒との交流と親睦を図ることを目的に開催されたものである。

よちよち歩きの幼児から、八十歳を超える方まで老若男女約九十名が集った。閉会は表彰式のち恩徳讃を唱和して無



事終了した。その後、懇親会を開催、より一層の心のつながりを得た。

正に組の三世代交流の場であり、組の活力を醸成する活動であると自負しているところである。今年度は特に若い僧侶や若婦人の参加が多くみられ頼もしく思った次第である。

(川上組)

中央教修了者のつどいが開催

去る七月二十三日、西本願寺高岡会館において『中央教修了者のつどい』が開催され、門徒推進員四十五名が参加した。今回の研修テーマは、「門徒推進員の活動を考える」何を目指し、何に取り組むのか、」

地域社会や寺院の抱える問題点について意見交換し、その克服のためにどのような活動に取り組んでいくのかを話し合った。

問題提起では講師の岡西法英氏(元教区相談員、五位組教願寺住職)が、「現在の教団は、社会に生きる人々へのメッセージ性を失ってしまっています。社会構造そのものが変化している中で、既存の寺檀制度や習慣の枠内では通用しない伝道活動になってはいないでしょうか。」と提起され、それを受けて、それぞれの現状の認識と課題について分散会で話し合い法座が行われた。

全体協議会での報告では、「僧侶と門徒のコミュニケーションが取れていない。僧侶と門徒が力を合わせて問題にあたれるような状況になっていない。」といった指摘や、「家族内でもろくに顔を合わせないことも珍しくない。まず家族にどう接し、伝道していくのが課題である。」といった意見が出されたが、全体的には「寺に人が集まらない」「若い人の寺離れが深

刻である」等、寺離れが進む中、どうやって寺に人を集めるかということを中心に意見が出された。

この報告を受けた講師助言では、「どれも大変熱心さが伺えるご意見ばかりですが、どうもお寺中心の発想に陥っているのではないのでしょうか。大事なのは『お寺にどうやって人を集めるか』ということではありません。いかに世の人々にメッセージを発信し、呼びかけるかということですよ。」と、活動の目的が人集めにすり変わってしまったのではないかと指摘された。

その上で、「今の教団の活動は限られた人だけが理解できる、限られた人だけに向けた伝道活動になってしまっています。その克服のために様々な取り組みが試みられています。中々上手くいくものでありません。」

「私が現在考えている取り組みは初参式と仏前結婚式です。今までご縁のなかった人たちと接点を持ち、関係を築いていくきっかけとなり得ると考えています。どのような取り組みもそう上手く行くものではありませんが、いかにして世の人々に教えを発信していくのか、皆さまに考えていただきたいと思えます。」と助言され、閉会した。

御同朋の社会をめざす運動のコーナー

「原爆記念日に知った原発事故の事実」

二〇一二年の広島原爆記念日の夜、被爆国に生きる私たちは、核爆弾と原発に共通する問題に対し、いかに無知であったかという現実と向き合いました。このつどいは、先の戦争の因縁を自らの問題として受け止め、敵味方という対立軸を超えて、すべての戦没者に慚愧し、再びいのちを殺し、殺させる現実を生まないこと誓うはずのものでしたが、もはや原発事故の前に、その願いは崩れてしまったのかもしれない。今回の事故で、いのちを脅かす放射能が広島型原爆の約百六十八発分（セシウム一三七比較）も拡散しているのにもかかわらず、収束宣言をし、大飯原発を再稼働させるなどという暴挙に出た政府は、いのちを見ていない人々の集まりと言わざるを得ません。

七月二十六日、第三回の非戦・平和公開学習会で上映したドキュメンタリー作品『内部被ばくを生き抜く』は、私たちがどんなに関心でも、微量の放射性物質が空気や食品を介して体内に入り、長期にわたって細胞を傷つけ続け、さまざまな病を誘発させる可能性があることを訴えていました。作品を流れる「放射能からいのちを守りたい」という強いメッセージを生んだのは、今回の講師、ドキュメンタリー映像監督の鎌仲ひとみさん（氷見市出身）でした。

監督は「自分たちで作る 命優先社会」と題し、湾岸戦争で使用された劣化ウラン弾とイラクの子どもの病死の因果関係を知ることきっかけにこの問題に取り組むこと

になったことや、NHKの下請け映像制作会社での現場経験、そして脱原発の大きなうねりや、健康被害などの情報を隠蔽しようとする情報操作が行われていることなどについて話して下さいました。

情報操作が行われる背景には、原子力に関連する莫大な利権をまもりたい五千人にも上る原子力官僚がいるからであることも教えて下さいました。


スクリーンに映し出される数々の衝撃的な情報に、大きな驚きとため息がもれ、同時にこの事態を招いたのは、他ならぬこの時代に生きる私たちであることを思い知りました。

先日、発表された「御同朋の社会をめざす運動」の「重点プロジェクト基本計画」に「原発」という言葉が明記されていないことに強い憤りを感じます。「東日本大震災をはじめとする被災者への支援」を掲げるのならばどうして原発問題を取り上げないのでしょうか。

被災地へ何度か赴き、支援活動を模索する中から新たなつながりが生まれ、今回、飯館村の方々が高岡教区に来られることになりました。事実を知ったからにはいのちをまもりたいという思いは、明らかに「反いのち」の原発と相容れないものです。ふるさとを追われ、家族がバラバラになり、子どもの健康を一番に心配しているお母さんたちの声から私が問われ、お念仏が私を問うているのです。

【教区委ヤスクニ問題専門委員 飛鳥 寛静】

これからの日程 (8 / 2 1 ~ 9 / 2 2)

8月		
20	寺青バザー実行委員会 寺院女性会連盟役員会	龍谷大学宗育部巡回 (1 9 ~ 2 8)
21	ヤスクニ問題専門委員会 富山仏教学会例会 コーラス練習日 サンセリテ・ビハーラ活動	ブロック講社研修会 (~ 2 2 ・富山)
22	長寿苑ビハーラ活動	
23	ビハーラ高岡執行部会 ハンセン病シンポジウム 実行委員会	
24	聖典セミナー (5 回目)	
25	本山杯懇親会	B 保育大学講座
26	本山杯野球大会	(~ 2 6 ・石川)
27	新湊組巡回	
28	仏婦・寺女合同研修会 (2 9)	8 月 1 4 日より、 1 7 日まで、教務 所事務休業いたし ます。
29	僧研スタッフ研修会	
30	非戦・平和学習会 (4 回目)	
31	教学開発室	
9月		
1		連区仏青研修会
2		(~ 2 ・石川)
3	僧侶研修会 (1 回目)	
4	僧侶研修会 (2 回目)	
5	同朋者養成研修会 寺青役員会 雨晴苑ビハーラ活動	連区布教使研修会
6		(~ 7 ・富山)
7	寺青バザー準備 (~ 8) ハンセン病シンポジウム	連区ビハーラ研修会
8		(~ 9 ・富山)
9	寺青ダーナ・バザー	
10	仏婦連盟組織委員会	
11	常例法座	
12	マヤの会	北陸ブロック組長会
13	第 1 回ビハーラ研修会	(~ 1 3 ・石川)
15	僧侶研修会 (3 回目)	
17	千鳥ヶ淵法要団体参拝	第 1 4 回平和を願うつ
18	(~ 1 8) 教区コーラス練習日	どい 千鳥ヶ淵全戦没者追悼 法要
21	聖典セミナー (6 回目) 公聴会	

ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 (K N B) ・ 7 3 8 k H z .
毎週土曜日 (本山制作) 午前 6:15 ~ 6:25
第 2 ・ 4 日曜日 (富山・高岡制作) 午前 6:00 ~ 6:10

- 8 / 18 (土) : 和氣 秀剛 氏 (奈良県・圓光寺)
「苦悩を引き受ける」
- 8 / 25 (土) : 苗村 隆之 氏 (京都府・正住寺)
「お立ち姿の阿弥陀様」
- 8 / 26 (日) : 段證 武邦 氏 (高岡教区・常尊寺)
- 9 / 1 (土) : 苗村 隆之 氏 (京都府・正住寺)
「慈母のごとし」
- 9 / 8 (土) : 未 定
- 9 / 9 (日) : 未 定 (富山教区)
- 9 / 15 (土) : 未 定
- 9 / 16 (日) : 未 定 (富山教区)
- 9 / 22 (土) : 未 定

【西本願寺高岡会館 9 月の常例法座】

ご講師: 旭 勲 氏
(新潟教区・常禅寺)

ご講題: 『み教えに出会うということ』

午後 1 時 2 0 分頃からビデオ上映、2 時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (1 7 5 袋) 7 , 0 0 0 円

・大 箱 (4 5 袋) 2 , 0 0 0 円

・小 箱 (1 6 袋) 9 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1 2 9 8

耳浦 康真 (本誓寺) Tel. & Fax. (0766) 23 - 9822